

アジアの喜劇



2025年2月16日(日)

鍔仙会 能楽研究所・能舞台

(港区南青山 4-21-29: 東京メトロ「表参道」徒歩3分)

17:00 開場 / 18:00 開演

一般: 4,000円 学生: 2,000円

※自由席・字幕付

【上演前レクチャー】 明治大学教授・加藤徹

助成: 独立行政法人日本芸術文化振興会
主催: 一般財団法人 日本京劇振興協会

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 6丁目7-1
エスカイア千歳船橋 103号

TEL: 03-6411-4168 <http://www.shincyo.com>

【お申込】 日本京劇振興協会
080-4478-7009(担当: 根目澤・梅木)
e-mail : 0216@shincyo.com
Web : <https://www.shincyo.com>

日中伝統芸能による新たな笑いの形とは？

日本の「狂言」と中国の「京劇」。
ともにユネスコ無形文化遺産に登録された伝統芸能が
融合したら、一体どんな新しい笑いが生まれるのか——
その未知の可能性に挑む実験的な公演です。

伝統を越えた新しい表現を追求し、
双方の表現が出会い、ぶつかり合いながら生まれる新たなアジアの喜劇。
予測不能な展開が織りなす笑いの世界を、ぜひその目で見届けてください。



演目：御馬監(ぎよばかん)

孫悟空が、まだ三蔵法師と出会う前の頃の話。神通力を用い下界で好き勝手な振る舞いをする孫悟空を見兼ねた天帝。孫悟空をうまく丸め込み、馬の管理役「弼馬温(ひつばおん)」として天界へと招集します。この役職が下級官吏であることを気づかぬ孫悟空は意気揚々と天界にやってくるのですが…。

能楽師狂言方和泉流：小笠原由禰(おがさわらただし)

重要無形文化財総合指定保持者。野村萬(人間国宝)、故8世万蔵、9世万蔵に師事。すでに狂言の大曲である「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を抜く。

NHK『義経』『ごちさそうさん』での芸能・所作指導他、その活動は多岐に渡り、2006年より現在まで「見る・知る・伝える千葉～創作狂言～」をプロデュース、毎年千葉県的神話民話風習を創作狂言に劇作・演出。2023年12月、第1回「ネオ狂言会」にて赤塚不二夫ギャグ漫画を題材として新作狂言「ポルチャーニ」を劇作・演出・主演。2024年には、第1回「おがさわら乃會」発足。平安から鎌倉期の猿楽を復元考証創作し上演。

海外活動では2019年2月ジャポニズム2018能楽パリ公演、2023年3月、太陽劇団テアトル・デュソレイユ能楽公演、2023年5月、ベトナムにて初となる能楽公演をはじめとして、ブラジル、ハンガリー、アルジェリアなど世界各国にて公演を行い、狂言の普及に努めている。

現在、萬狂言関西支部代表、パリ・コンセルバトワール特別講師。延年之會主宰。
<http://www.atelier-oga.com/>

京劇俳優：石山雄太(いしやまゆうた)

東京生まれ。小学生のとき、中国から来日した京劇団の公演で孫悟空を見て以来、京劇に魅了され、高校を卒業後、中国に渡り京劇を指導する最高教育機関「中国戯曲学院」に留学。卒業後は中国トップの京劇院・中国京劇院(現・中国国家京劇院)に入団。京劇界初となる外国人(日本人)の京劇俳優となる。

現在は中国・日本の両国で活躍しており、文化庁・学校巡回公演事業では「孫悟空 天界で大暴れ」の主演・孫悟空を100回以上務めた。専門の役柄は立ち回りを交えた幅広い演技力を要求される道化役「武丑(ぶちゅう)」。

2017年より立教大学兼任講師を務める。



小笠原 弘晃 泉 慎也
能楽師狂言方和泉流 能楽師狂言方和泉流

司会：張烏梅
企画・制作：梅木俊治



レクチャー：加藤徹(かとうとくお)
明治大学教授。1963年、東京都生まれ。
日本はもとより中国でも認められる京劇研究の第一人者。主著に「京劇」「梅蘭芳 世界を虜にした男」「絵でよむ漢文」など
「京劇城」<https://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/KGJ.html>



総合演出：張春祥(ちようしゅんしょう)
一般財団法人日本京劇振興協会代表理事。
祖父の代から京劇を家業とする一家に生まれ自身も北京京劇院で活躍。1989年に来日後は俳優・演出・振付師として活動。中島みゆき「夜会」、蜷川演出「さらばわが愛・霸王別姫」、宝塚歌劇団「蒼穹の昴」他